

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
国際学研究入門	国際学研究科 共通科目	2	1	国際学の学問的領域と修士論文の要諦について講義するとともに、国際学にかかわる基本的な文献を講読する。また、広く学術論文の意味、注意すべき点、理解の仕方、書き方などを修得するため、教員の講義と学生の演習を組み合わせた授業を展開する。なお、学部時代に卒業論文を課せられなかった学生、学部時代は他の分野での学修を主とした学生のためにも、基礎的な事柄を重視して授業を進めていく。	国際学の学問的領域について理解し、研究上の問題意識を養ったうえで、修士論文の作成法について十分に理解できるようになる。	国際学の学問的領域について理解し、研究上の問題意識を養ったうえで、修士論文の基本的な作成法について理解できるようになる。
国際学総合研究	国際学研究科 共通科目	2	2	国際学にかかわる多様な文献を講読し、その内容を報告し、それに対する質疑応答を行い、理解を深める。学生はすでに1年次において指導教員が担当する「国際学演習I」「国際学演習II」を履修し、修士論文の作成に向けて一歩を踏み出しているが、各自の研究を研究分野の異なる教員の指導を受けることによって、より幅広い視点から深めていく。	各学生が自らの研究をさらに深めるために国際学の観点から考察し、分析・整理の方法を十分に理解できるようになる。	各学生が自らの研究をさらに深めるために国際学の観点から考察し、基本的な分析・整理の方法を理解できるようになる。
日本文化研究I （歴史）	国際学研究科 国際文化系科目 日本文化研究	2	1・2	日本の近世から近代に移行する時代の歴史に関するテーマについて、教員が講義を行うとともに、この分野に関して、学生が自ら課題を設定し、資・史料読解を軸とした演習を行う。	・講義の内容を十分に理解し、重要な事項について説明することができる。（知識・理解・表現） ・資・史料を十分に読解するスキルを身につけることができる。（技能）	・講義の内容を理解し説明することができる。（知識・理解） ・資・史料を読解するスキルを身につけることができる。（技能）
日本文化研究II （歴史）	国際学研究科 国際文化系科目 日本文化研究	2	1・2	日本の近現代（昭和戦後期を含む）の歴史に関するテーマについて、教員が講義を行うとともに、この分野に関して、学生が自ら課題を設定し、資・史料読解を軸とした演習を行う。	・講義の内容を十分に理解し、重要な事項について説明することができる。（知識・理解・表現） ・資・史料を十分に読解するスキルを身につけることができる。（技能）	・講義の内容を理解し説明することができる。（知識・理解） ・資・史料を読解するスキルを身につけることができる。（技能）
日本文化研究V （言語文化）	国際学研究科 国際文化系科目 日本文化研究	2	1・2	日本の言語文化の代表として、近代・現代の小説を取り上げる。内容・構成の分析、登場人物・舞台設定・時代背景の検討など、作品を詳細に読み解くことによって日本文化・言語文化の本質に迫る。	・文学のリアリティや表現力を理解し、言語文化の本質を認識できる。（知識・理解） ・文学が描く人間や社会背景の複雑なありようを抽出・分析することができる。（思考・判断・分析） ・適切な分析方法を使って文学と現代社会の関係についてのレポートを作成できる。（技能）	・文学のリアリティや表現力を理解し、言語文化の本質をある程度まで認識できる。（知識・理解） ・文学が描く人間や社会背景の複雑なありようの基礎的な抽出・分析ができる。（思考・判断・分析） ・分析方法を使って文学と現代社会の関係についての、基本レベルのレポートを作成できる。（技能）
日本文化研究VI （言語文化）	国際学研究科 国際文化系科目 日本文化研究	2	1・2	日本の言語文化の代表として、近代・現代の小説を取り上げる。内容・構成の分析、登場人物・舞台設定・時代背景の検討など、作品を詳細に読み解くことによって日本文化・言語文化の本質に迫る。	・文学のリアリティや表現力を理解し、言語文化の本質を認識できる。（知識・理解） ・文学が描く人間や社会背景の複雑なありようを抽出・分析することができる。（思考・判断・分析） ・適切な分析方法を使って文学と現代社会の関係についてのレポートを作成できる。（技能）	・文学のリアリティや表現力を理解し、言語文化の本質をある程度まで認識できる。（知識・理解） ・文学が描く人間や社会背景の複雑なありようの基礎的な抽出・分析ができる。（思考・判断・分析） ・分析方法を使って文学と現代社会の関係についての、基本レベルのレポートを作成できる。（技能）
日本文化研究VII （日本語）	国際学研究科 国際文化系科目 日本文化研究	2	1・2	授業では、語彙論や語構成論、語種など単語に関わる研究分野と形態論や構文論、談話分析といった文法に関わる研究分野の中から研究テーマに合わせていくつかのトピックを選択し、講義と合わせて、論文を読みながら考察を進める。	現代日本語を対象とした日本語学の諸分野における研究方法および先行研究の成果について高度な学識を修得し、適切な説明ができるようになる。	現代日本語を対象とした日本語学の諸分野における研究方法および先行研究の成果について基本的な学識を修得し、説明ができるようになる。
日本文化研究VIII （日本語）	国際学研究科 国際文化系科目 日本文化研究	2	1・2	テンスやアスペクト、ヴォイス、モダリティといった文法項目のなかからいくつかを取り上げ、講義と合わせて、論文を読みながら考察を進める。他言語との対照研究という視点からも分析を行う。また、具体的な用例を収集しながら、分析・考察を進める方法についても演習を行う。	現代日本語について対照研究という視点から高度な学識を修得し、適切な説明ができる。	現代日本語について対照研究という視点から基本的な学識を修得し、説明ができるようになる。
中国文化研究I （歴史）	国際学研究科 国際文化系科目 中国文化研究	2	1・2	Hilary J. Beattie, Land and Lineage in China A Study of T'ung-Ch'eng county, Anhwei, in the Ming and Ch'ing dynastiesを読み、中国の地方社会、とくに土地所有のありかたについて考察する。	・中国史について書かれた英語のテキストを、専門用語や固有名詞などを含めて、適切な日本語に翻訳することができる。（知識・理解） ・テキストに書かれている内容を、十分に理解することができる。（知識・理解） ・テキストの内容を適切に要約して、わかりやすく報告することができる。（思考・判断・表現） ・テキストを十分に理解するのに必要な歴史的知識を十分にそなえている。（知識・理解） ・テキストのテーマについての研究史を理解している。（知識・理解） ・テキストのテーマについて、自分の見解を述べるすることができる。（思考・判断・表現）	・中国史について書かれた英語のテキストを、基本的に、日本語に翻訳することができる。（知識・理解） ・テキストに書かれている内容を、基本的に、理解することができる。（知識・理解） ・テキストの内容を要約して報告することができる。（思考・判断・表現）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
中国文化研究II （歴史）	国際学研究科 国際文化系科目 中国文化研究	2	1・2	Bradly Ward Reed, Talons and Teeth: County Clerks and Runners in the Qing Dynasty (Law, Society, and Culture in China)を読みながら、清代官僚制と胥吏のあり方について考察する。	・中国史について書かれた英語のテキストを、専門用語や固有名詞などを含めて、適切な日本語に翻訳することができる。（知識・理解） ・テキストに書かれている内容を、十分に理解することができる。（知識・理解） ・テキストの内容を適切に要約して、わかりやすく報告することができる。（思考・判断・表現） ・テキストを十分に理解するのに必要な歴史的知識を十分にそなえている。（知識・理解） ・テキストのテーマについての研究史を理解している。（知識・理解） ・テキストのテーマについて、自分の見解を述べることができる。（思考・判断・表現）	・中国史について書かれた英語のテキストを日本語に翻訳することができる。（知識・理解） ・テキストに書かれている内容を、基本的に、理解することができる。（知識・理解） ・テキストの内容を、要約して報告することができる。（思考・判断・表現）
中国文化研究III （社会）	国際学研究科 国際文化系科目 中国文化研究	2	1・2	中華人民共和国の成立とその展開を「政治」という視角から考察していく。授業では、中国政治と行政の仕組みを習得した上で、毛沢東時代における主要な政治運動である「大躍進」、「文化大革命」に焦点を合わせ、その期間に関する文献・資料を読み取り、先行研究を踏まえて教員が講義を行う。また、演習方式も取り入れ、取り上げた諸問題について学生自身が分担を決めて、調査を行い、その成果を発表する。	中華人民共和国の成立とその展開を「官僚制」という視角から考察することによって、中国政治と行政の仕組みを理解し、中国社会の変容を分析する能力を持つことができる。	中国政治の仕組みを理解し、毛沢東時代における主な政治運動の実態を最低限に説明することができる。
中国文化研究IV （社会）	国際学研究科 国際文化系科目 中国文化研究	2	1・2	授業では、改革・開放政策の下で経済発展を遂げている現代中国社会の変化と直面している諸問題を取り上げ、現代中国社会における構造変動と体制変容について考察するとともに、将来の展望を試みたい。実態理解のために、改革・開放政策、国有企業改革、公務員制度の確立、一帯一路構想などの課題を考察し、担当した学生に定期的に報告してもらう。	改革開放後における中国社会の構造変動を理解し、経済発展が変えた社会の変容及び社会階層の分化を分析する能力を持つことができる。	改革開放後における中国社会の構造変動を理解し、経済発展が変えた社会の変容の軌跡を最低限に説明することができる。
中国文化研究V （芸術）	国際学研究科 国際文化系科目 中国文化研究	2	1・2	中国の芸術を、その時々々の社会を映す鏡として捉え、その研究を通して中国社会の諸問題を考える姿勢、能力を涵養することを目標とする。授業では、古代以降の中国書道の歴史や書論にかかわる文献資料や作品の画像資料によって、理解を深めてゆく。	1. 中国書道史の概略について把握し、一定程度説明することができる（知識・理解）。 2. 個々の文献・作品の表現や構図の分析を通して作品のメッセージを読み取り、その成果をわかりやすく報告することができる（知識・理解）。	1. 中国書道史の概略について把握し、その基本要素について説明することができる（知識・理解）。 2. 個々の文献・作品の表現や構図の分析を通して作品のメッセージを読み取り、一定程度の成果をあげることができる（知識・理解）。
中国文化研究VI （芸術）	国際学研究科 国際文化系科目 中国文化研究	2	1・2	古代以来の中国の芸術として重要な位置を持つ書道に注目し、その研究を通して、欧米と異なる中国的感性を把握、中国的なものについて見識を持ち、説明できるようになることを目標とする。授業ではいくつかの作例に即し、まずそれらの題材、書法、表現の特徴を分析し、そこから中国的性格とその特色について、概略をつかむ。つづいて学生自身が同様の分析と考察を行い、レジュメを作成して報告する。	1. 古代以来連続と続く中国書道の普遍的・持続的要素を把握することができる（知識・理解）。 2. 中国人の時代を超えた美意識・価値観について一定の見識を持ち、それをわかりやすく説明できる（思考・判断・表現）。 3. 関連の資料を効率よく探索し、わかりやすいレジュメにまとめることができる（情報収集・技能）。	1. 古代以来連続と続く中国書道の普遍的・持続的要素を把握することができる（知識・理解）。 2. 中国人の時代を超えた美意識・価値観について一定の見識を持ち、その基本的要素を説明できる（思考・判断・表現）。 3. 関連の資料を探索し、レジュメにまとめることができる（情報収集・技能）。
中国語表現法I	国際学研究科 国際文化系科目 中国文化研究	2	1・2	中国語表現の特徴を学ぶことによって中国語の的確な読解力、表現力を習得することを目標とする。授業では文学作品、映画、新聞・雑誌、論文など多様な教材を用い、それらの翻訳や漢字による表現の検討を通して日中両国の言語の特色について考える。	中国語と日本語の表現の相違を学び、関連する問題が指摘できるようになる。かつ、中国語と日本語の文法的特質が考察できる。	中国語と日本語の表現の相違を学び、関連する問題が指摘できるようになる。
中国語表現法II	国際学研究科 国際文化系科目 中国文化研究	2	1・2	「中国語表現法I」を受け、中国語による発信力の練磨と説明能力の涵養を目標とする。授業では教材の翻訳や漢字による表現の検討を通して、日中両国の言語の特色について考える。	中国語と日本語の表現の相違を学び、関連する問題が指摘できるようになる。かつ、言語習慣上の相違がコミュニケーションに及ぼす影響について考察できる。	中国語と日本語の表現の相違を学び、関連する問題が指摘できるようになる。
ヨーロッパ文化研究I（歴史）	国際学研究科 国際文化系科目 ヨーロッパ文化研究	2	1・2			

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
ヨーロッパ文化研究II（歴史）	国際学研究科 国際文化系科目 ヨーロッパ文化研究	2	1・2			
ヨーロッパ文化研究III（社会）	国際学研究科 国際文化系科目 ヨーロッパ文化研究	2	1・2			
ヨーロッパ文化研究IV（地域）	国際学研究科 国際文化系科目 ヨーロッパ文化研究	2	1・2	この授業は、人間の営為により生産された一つの文化地域としてのヨーロッパを総合的に分析し理解するための知識と技術を習得することを目的とする。近年のヨーロッパでは、国民国家の地位の相対的低下やグローバル化の進行により、国家の陰に隠れていた地域が顕在化したり、新たな地域間協力の枠組みが登場するなど、空間の再編成が進行中である。こうした現象を空間的視座から論じた資料を講読し、その内容について議論する。	1. 系統地理学の専門知識をもって、文化地域としてのヨーロッパを理論的に説明できる。（知識・理解） 2. 近年のヨーロッパを取り巻く様々な変化を、空間論、地域論などの地理学の専門的知識を用いて理論的に説明できる。（知識・理解）	1. 系統地理学の知識をもって、文化地域としてのヨーロッパを最低限説明できる。（知識・理解） 2. 近年のヨーロッパを取り巻く様々な変化を、空間論、地域論などの地理学の知識を用いて最低限説明できる。（知識・理解）
ヨーロッパ文化研究V（芸術）	国際学研究科 国際文化系科目 ヨーロッパ文化研究	2	1・2			
ヨーロッパ文化研究VI（芸術）	国際学研究科 国際文化系科目 ヨーロッパ文化研究	2	1・2			
ヨーロッパ文化研究VII（言語文化）	国際学研究科 国際文化系科目 ヨーロッパ文化研究	2	1・2			
ヨーロッパ文化研究VIII（言語文化）	国際学研究科 国際文化系科目 ヨーロッパ文化研究	2	1・2			
英語表現法I	国際学研究科 国際文化系科目 ヨーロッパ文化研究 アメリカ文化研究	2	1・2			
英語表現法II	国際学研究科 国際文化系科目 ヨーロッパ文化研究 アメリカ文化研究	2	1・2	「英語表現法I」を踏まえ、口頭でも文章でも英語で発信できる能力を養成することを目標とする。授業では、より豊かな語彙力や表現力を身につけるために、英文資料・文献の多読を促しつつ、プレゼンテーションの方法や英文要旨の書き方、英語論文の作成法などについても指導する。受講生は、各々が専門とする分野や地域に関する研究テーマについて書かれた英語資料・文献を読み、その内容について報告を英語で行う。また、授業では、各報告に基づいて英語によるクラス討論も行い、高度な英語表現能力を身につけるように様々な訓練を行うこととする。	Students will improve their their ability to express themselves successfully in spoken and written English.	Students will work to mprove their their ability to express themselves successfully in spoken and written English.
フランス語表現法I	国際学研究科 国際文化系科目 ヨーロッパ文化研究	2	1・2			
フランス語表現法II	国際学研究科 国際文化系科目 ヨーロッパ文化研究	2	1・2			
アメリカ文化研究I（歴史）	国際学研究科 国際文化系科目 アメリカ文化研究	2	1・2			
アメリカ文化研究II（歴史）	国際学研究科 国際文化系科目 アメリカ文化研究	2	1・2			

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
アメリカ文化研究III（社会）	国際学研究科 国際文化系科目 アメリカ文化研究	2	1・2	年間数十万人もの移民を世界各地から受け入れている北米国家アメリカ合衆国とカナダ。その民族的な多様性に加えて、地域的な多様性が織りなす複雑な社会の統合原理を探り理解する。授業では、これまでに著されたアメリカ合衆国とカナダの社会論・文化論の系譜を辿り、時代ごとの国内状況と学術的動向を把握する。その上で、今日における両国の社会的な実態と照らし合わせて、従来の研究に対する検証を試みる。	1. アメリカ合衆国とカナダの民族的・地域的多様性の実態を、両国の歴史的経緯や国の成り立ちと関連づけて説明することができる。（知識・理解） 2. アメリカ合衆国とカナダの社会論・文化論の系譜を的確に把握し、今日の社会的な実態を踏まえた上で、批判的な検証と知識や理論の補完を行うことができる。（思考・判断・表現） 3. 授業を通じて身につけた批判的な検証能力を活かして、自身の研究テーマに関するレポートを作成することができる。（思考・判断・表現）	1. アメリカ合衆国とカナダの民族的・地域的多様性の実態を、両国の歴史に触れながら説明することができる。（知識・理解） 2. アメリカ合衆国とカナダの社会論・文化論の系譜を的確に把握し、今日の社会的な実態を踏まえた上で批判的な検証を行うことができる。（思考・判断・表現） 3. 授業を通じて経験した批判的な検証を、自身の研究テーマに関するレポート作成において実践することができる。（思考・判断・表現）
アメリカ文化研究IV（社会）	国際学研究科 国際文化系科目 アメリカ文化研究	2	1・2	アメリカの民主主義や民主主義一般に関する理論を理解し、さらに、このような分析枠組みから各自の研究対象にアプローチすることの意味や重要性について理解することを目標とする。その意味では、アメリカに限らず、比較政治的な視点から各国の政治・社会制度を分析する素養を養うことになる。授業では、まず民主主義がどのようなものとして捉えられてきたかについて理論的に検討する。そのうえで、アメリカ国内における民主主義の歴史的発展と現状について、様々な英文資料を活用しながら考察する。	民主主義理論に関する理解とアメリカの民主主義の実践に関する理解を深め、メディアや学術的文献で議論されているさまざまな国々の政治や社会のあり方について比較政治的、国際的な視点からつねに分析できるようにする。これに加えて、受講者の研究分野において、このような民主主義理論や比較政治・比較社会的枠組みから研究対象にアプローチすることがどのような意味を持つかを考察できるようにする。（知識・理解）	民主主義理論に関する理解とアメリカの民主主義の実践に関する理解を深め、メディアや学術的文献で議論されているさまざまな国々の政治や社会のあり方について比較政治的、国際的な視点からつねに分析できるようにする。（知識・理解）
アメリカ文化研究VII（言語文化）	国際学研究科 国際文化系科目 アメリカ文化研究	2	1・2	現代のアメリカ社会や文化の諸問題について、言語文化に焦点をあてて検討し、アメリカの言語文化に関する体系的な知識を身につける。授業では、まず、アメリカの言語文化に関して書かれた基礎的文献を精読し、アメリカの言語文化の多様性を考察する。その上で、アメリカの言語文化の具体的な例として現代演劇やその他のアメリカの代表的な文化表象を取り上げ、それぞれの研究に即した理論的枠組みをもとに、現代のアメリカ社会において多様な文化的アイデンティティがどのように構築されてきたかを通時的かつ共時的に分析・検証する。	現代のアメリカ社会や文化の諸問題について、言語文化に焦点を当てて検討し、アメリカの言語文化に関する体系的な知識を獲得できる。	現代のアメリカ社会や文化の諸問題について、言語文化に焦点を当てて検討し、アメリカの言語文化に関する知識を獲得できる。
アメリカ文化研究VIII（言語文化）	国際学研究科 国際文化系科目 アメリカ文化研究	2	1・2	アメリカの言語文化に関する近年の研究動向や課題について学び、アメリカの言語文化の多様性やダイナミズムを体系的に分析する力を養う。授業では、主として現代の移民によって書かれた小説や演劇などを取り上げて、アメリカの言語文化に関する主要なテーマを検討し、そのテーマに関して書かれた英語資料を精読しながら、言語文化の解釈や分析の方法について講義とディスカッションを通して学ぶ。さらに、それぞれの専門領域に応じて、アメリカの言語文化に関するリサーチを行い、アメリカの言語文化がどのように形成されてきたかを歴史的、社会的コンテキストに沿って分析し、アメリカ文化史への理解を深める。	英語文献を正確に読み取り、的確に理解する力を身につける。その上でのアメリカの言語文化の形成のプロセスを歴史的・社会的に考察することで、アメリカ文化への理解を深めることができるようになる。	英語文献を正確に読み取り、的確に理解する力を身につける。その上でのアメリカの言語文化の形成のプロセスを歴史的・社会的に考察することで、アメリカ文化を最低限理解できるようになる。
国際システム研究I（経済動向）	国際学研究科 国際社会系科目 国際システム研究	2	1・2	国際システムについて高度の学識を獲得させるため、急速に変化する国際間のヒトの移動について、高度な学識を学びつつ、現在起きている、または今後起きうる問題の解決に資する調査・研究能力を養う。授業では、ヒトの国際移動（特に女性の国際労働力移動や女性が多くを占めてきた職種種の国際労働力移動）について、その歴史的経緯や近年の実態、また各国の法制や諸施策、国際的取り組み等を詳細に把握しつつ問題の発見と分析に取り組む。	・今日のグローバル化経済について、国際的な労働力移動の観点から分析・考察し、理解することができるようになる。（知識・理解） ・今後起こりうる問題の解決に資する調査・研究能力を得る。（技能）	・今日のグローバル化経済について、国際的な労働力移動の観点から分析・考察し、理解することができるようになる。（知識・理解）
国際システム研究II（経済動向）	国際学研究科 国際社会系科目 国際システム研究	2	1・2	この講義では、国際貿易に焦点をあて、もし自分が国際貿易の論文を書くとしたら、どのような論文を書くか？ということを考える。具体的に、講義では国際貿易の様々なトピックの論文を読んだ上で、最終的に自分が論文を書くとしたらというプロポーザルを仕上げる。	・専門文献を読み、国際貿易に関する知識、分析する上での経済学的手法を習得する。（知識・理解）(技能) ・専門文献を自分の研究に繋げる力をつける。（思考・判断・表現）	・専門文献を読み、国際貿易に関する知識、分析する上での経済学的手法を習得する。（知識・理解）(技能)
国際システム研究III（国際関係）	国際学研究科 国際社会系科目 国際システム研究	2	1・2	国際関係論の英語研究文献を輪読し、国際関係の理論と実際に関する学識を深め、国際社会の秩序について分析する基礎能力を習得する。まず、国際社会における主権国家等の行動主体の特徴と様々な行動主体の相互関係について考察し、国際秩序・地域秩序を形成する原理・原則や規範について論じる能力を身につける。次に、様々な国際組織や国際制度、対外政策の形成などに関する理論について学び、具体的な事例から課題を見出し、解決策を考察する技法を習得する。	1. 国際関係論の英語研究文献を批判的に読み解き、自分の考えを述べることができる。（知識・理解） 2. 国際関係の具体的な事例から解決すべき課題を見出し、解決法を考察することができる。（思考・判断・表現）	1. 国際関係論の英語研究文献を正確に読み解くことができる。（知識・理解） 2. 国際関係の具体的な事例から解決すべき課題を見出すことができるようになる。（思考・判断・表現）
国際システム研究VI（経済社会課題）	国際学研究科 国際社会系科目 国際システム研究	2	1・2	この講義では、グローバル経済における問題を取り上げ、その問題に関する文献を輪読し、ディスカッションを行う。輪読・ディスカッションを通じて問題を深く分析する力を養う。	・専門文献を読み、グローバル経済に関する知識、分析する上での経済学的手法を習得する。（知識・理解）(技能) ・学んだ理論を応用して自ら様々な問題を分析出来るようになる。（思考・判断・表現）	・専門文献を読み、グローバル経済に関する知識、分析する上での経済学的手法を習得する。（知識・理解）(技能)

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
国際システム研究VII（経済社会課題）	国際学研究科 国際社会系科目 国際システム研究	2	1・2	事例を参照しつつ、経済社会を横断するジェンダー問題について、それを整理し解決につなげる思考方法を発展させることにより、応用・分析能力を培うことを目標とする。授業では、近年の様々な国際経済社会の諸課題について、具体的事例研究（少子・高齢化問題、経済社会のサービス・情報化問題、外国人労働問題、非正規労働の拡大問題、ワーク・ライフ・バランス問題等）で、ジェンダー視点からの分析・考察をしつつ、関連する学識を得る。	近年の様々な国内的・国際的経済社会の諸課題について、文献の講読と関連資料の収集・分析により、各課題の構造的な問題性、地域性、歴史的特徴、ジェンダー問題等を考察し、論じることができるようになる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	近年の様々な国内的・国際的経済社会の諸課題について、文献の講読と関連資料の収集・分析により、各課題の構造的な問題性、地域性、歴史的特徴、ジェンダー問題等を理解する。（知識・理解）
国際協力研究I（グローバルガバナンス）	国際学研究科 国際社会系科目 国際協力研究	2	1・2			
国際協力研究II（グローバルガバナンス）	国際学研究科 国際社会系科目 国際協力研究	2	1・2	国際社会を規律する国際法を体系的に理解することを目的とする。国際協力の基礎をなす国家についての理解を深め、かつ、自らの修士論文に必要な資料を読み進め、議論を深める。	国際法体系全体を総合的に理解し、自らの論文のテーマをその中に位置づけるとともに、国際法体系の深化に寄与するような思索をめぐらせる。	国際法体系の基礎を理解できる。自らの論文のテーマについて、概要を把握し、議論を通じて深めることができる。
国際協力研究III（グローバルガバナンス）	国際学研究科 国際社会系科目 国際協力研究	2	1・2			
国際協力研究V（サステナビリティ）	国際学研究科 国際社会系科目 国際協力研究	2	1・2	資源環境問題について、政策的操作が可能な分析の枠組みに取り込む方法を理解することを目標とする。経済活動のインプットである資源投入、プロセスからのアウトプットである廃棄物排出の制約は明示的に取り込まれてこなかった。今日、サステナビリティ（持続可能性）の理念は広く共有されているが、その定義は曖昧である。そこで、授業では、世代間公平性と地域的公平性の観点から現在の国際資源、環境問題を検討する。	第一には持続可能な開発の概念を、それが先進国と開発途上国のコンセンサスとなるに至った経緯を含めて理解すること。第二には持続可能な開発に向けた開発における最大の課題である地球温暖化の科学の主要争点について、自分の判断ができる力を養うこと。第三には地球温暖化対策の経済学的な議論における、世代間の公平や現在価値の計算・割引率などの論点の基本を理解する。	持続可能性の概念の定義を正確に理解する。太陽黒点説と温暖化ガス説の相違を理解する。世代間公平の条件を正確に理解する。
国際協力研究VI（南北問題）	国際学研究科 国際社会系科目 国際協力研究	2	1・2			
国際文化交流研究II（日本における外国人）	国際学研究科 関連科目	2	1・2			
国際コミュニケーション研究I	国際学研究科 関連科目	2	1・2			
国際コミュニケーション研究II	国際学研究科 関連科目	2	1・2	国際的な場面において文化的背景が異なる人々がコミュニケーションを図る際に生じる様々な問題や課題を研究し、世界の人々と円滑なコミュニケーションを実現できる能力を身につける。授業では、国際協力や文化交流などにおける様々な状況—会議、交渉から個人的関係まで—を想定し、そこに生じうる諸問題や課題について学習することにより、英語と地域言語との関係を踏まえつつ、コミュニケーションの成立あるいは不成立の状況を考察する。それと共に、一人ひとりの国際コミュニケーション能力を向上させる。	国際的な場面において文化的背景が異なる人々がコミュニケーションを図る際に生じる様々な問題や課題を研究し、世界の人々と円滑なコミュニケーションを実現できる能力を養う。	国際的な場面において文化的背景が異なる人々がコミュニケーションを図る際に生じる様々な問題や課題を理解する。
域研究論I	国際学研究科 関連科目	2	1・2	私たちを取り巻く環境は、人間活動に様々な方法で関与し、時に恩恵を、そして時には被害を与える。そのため自然環境との共存は私たちの重要な課題となっている。この授業では、自然環境と人間活動との関係に注目し、両者の相互作用により生産される複合的な景観を理解するとともに、環境と景観に関する専門的知識を身につけることを目的とする。	1. 人間と自然環境との関係を深く理解したうえで、その関係を自然地理学的観点から説明できる。（知識・理解） 2. 自然地理学の広範な知識を身につけたうえで、自然の成り立ちを専門的知識をもって理論的に説明できる。（知識・理解）	1. 人間と自然環境との関係を理解したうえで、その関係を自然地理学的観点から最低限説明できる。（知識・理解） 2. 自然地理学の知識を身につけたうえで、自然の成り立ちを最低限説明できる。（知識・理解）
フィールドワークI	国際学研究科 関連科目	2	1・2	この授業では、地理学、社会学、文化人類学などで必須とされるフィールドワークの技法を習得する。学生はそれにより身につけた技法を活用して、1週間程度のフィールドワークを実習形式で実施し、最終的に調査報告書を提出することを目的とする。	1. フィールドワークの手法として、インタビュー調査、アンケート調査、景観調査、エスノグラフィ法などについて熟知している。（知識・理解） 2. 上記の手法を十分に活用してフィールドワークを遂行できる。（技能） 3. 調査結果を十分な内容の報告書としてまとめることができる。（思考・判断・表現）	1. フィールドワークの手法として、インタビュー調査、アンケート調査、景観調査、エスノグラフィ法などについて最低限理解している。（知識・理解） 2. 上記の手法を活用してフィールドワークを最低限実施できる。（技能） 3. 調査結果を最低限の内容の報告書としてまとめることができる。（思考・判断・表現）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
フィールドワークII	国際学研究科関連科目	2	1・2	この授業では、「フィールドワークI」を踏まえ、さらに1週間程度の現地調査（二次調査）を実習形式で行う。それによってフィールドワークの実践力を一層高め、研究や修士論文執筆に役立たせることを目的とする。	1. 前回の調査内容を踏まえ、調査手法を修正して実践する方法を熟知している。（知識・理解） 2. 前回の調査方法を修正・改善したうえで、フィールドワークを遂行できる。（技能） 3. 調査結果を高度な小論文としてまとめることができる。（思考・判断・表現）	1. 前回の調査内容を踏まえ、調査手法を修正して実践する方法を最低限理解している。（知識・理解） 2. 前回の調査方法を修正したうえで、フィールドワークを最低限実施できる。（技能） 3. 調査結果を必要最低限の内容を備えた小論文としてまとめることができる。（思考・判断・表現）
インターンシップ	国際学研究科関連科目	2	1・2	教員および学園が紹介し、相手の企業・団体との許可を得て、実習を実施する。その内容は相手の企業・団体からの報告書、および本人の報告書において記載するとともに、実施後、報告会を開催して報告する。	国際学について高度な学識を獲得するため、実際の現場で仕事を体験することを通じて、国際的諸問題の所在、対応策について十分に理解を深め、研究への意欲を高める。	国際学について高度な学識を獲得するため、実際の現場で仕事を体験することを通じて、国際的諸問題の所在、対応策についての最低限の理解ができ、研究への意欲を高める。
国際学演習I	国際学研究演習科目科	2	1	研究テーマに関し研究文献を探索すること、そのうちのどの文献が基本となる研究文献であるか、また依拠すべき基本資料であるかを理解する。こうして得られた基本となる研究文献、依拠すべき基本資料について、少しずつ学生が読み、それを毎回報告する。	研究テーマに関係する研究文献を調査収集し、基本となる文献について精確に理解できるようになる。	研究テーマに関係する研究文献を調査収集し、基本となる文献について概要を理解できるようになる。
国際学演習II	国際学研究演習科目科	2	1	基本的には、「国際学演習I」の継続であるが、より速くより多くの文献を読み進め、修士論文のテーマを固める。	「国際学演習I」を踏まえて、さらに十分に理解を深め、より多くの知見を修得できるようになる。	「国際学演習I」を踏まえて、さらに理解を深め、多くの知見を修得できるようになる。
国際学演習III	国際学研究演習科目科	2	2	修士論文の作成に向けて、調査研究した内容を順次報告する。まだ構想が完成している段階ではないので、報告しつつ構想を練り直していく。7月下旬の修士論文構想発表会までに論文としてまとめるに足る構想を完成する。	修士論文の構想を完成させることができる。	修士論文の構想を固めることができる。
国際学演習IV	国際学研究演習科目科	2	2	完成した構想に基づいて、論文を執筆していく。教員のコメントに対し、書き直すという過程を繰り返かえて、論文を完成させる。	「国際学演習III」を踏まえて、完成度の高い修士論文を書き上げることができる。	「国際学演習III」を踏まえて、修士論文を書き上げることができる。